

令和7年度 第9回大台町立小学校のあり方検討委員会 議事録

令和8年3月23日(月) 13時30分～
大台町役場 2階 大会議室

出席：竹内委員長、齋藤副委員長、西村委員、上瀬委員、森井委員、松崎委員
事務局：福岡教育長、山下子ども教育課長、門野係長

1. あいさつ

大台町立小学校のあり方検討委員会 竹内委員長
大台町教育委員会 福岡教育長

2. 答申最終案の確認について

前回の委員会で検討された答申書最終案について、事務局より主な訂正箇所(黄色マーカー部分)の説明を行った。

● 全体的な統一

「児童生徒」を「児童」に、「小中学校」を「小学校」に、「教員」を「教職員」に統一した。
「面積が広い」「縦に長い」といった表現を「東西に長く」に統一した。

● 各資料の主な修正点

資料1ページ：「大台町長及び大台町教育委員会教育長」を「大台町教育委員会」に訂正した。これまでの取り組みの記載を「町」から「あり方検討委員会」の取り組みに修正した。

資料4ページ：日進小学校の令和9年度の数値を、複式学級を想定したものに変更した。

資料6ページ：日進小学校の表記を追記。三瀬谷小学校の令和13年度の表現を「現状の半数程度」に変更した。

資料7ページ：説明部分の数値を訂正した。

資料8～11ページ：写真の入れ替え、説明文の年数等を訂正した。

資料13～14ページ：大台町学校教育の方針の訂正を反映した。

資料15ページ：調査内容、および対象者・回答率の数値を訂正した。

資料26～28ページ：小中学生のアンケート結果に合わせた分析に修正した。

資料29ページ：学級編制の「編制」の漢字を訂正した。

資料32ページ：規模の表記を「複式学級が存在する規模」「クラス替えができない規模」「全学年でクラス替えができない規模」に変更した。

資料33ページ：地図上の学校の位置ズレを訂正した。

資料45～46ページ：資料6としてスクールバスの運行状況を追記した。

3. 委員からの質疑・意見交換

委員より以下の意見が出され、対応を協議した。

該当箇所	意見	対応
資料 6 ページ	データを元にした数値であるため、「予想」よりも「推定」という言葉の方が適切ではないか。	修正
資料 15 ページ	アンケート実施当時の目的として書かれているのであれば、「検討を進めてきました」という表現の方がよいのではないか。	答申に合わせた表現と しているため修正なし
資料 21 ページ	下から 5 行目について、文の途中から逆の内容になるため、「ある一方で、」という表記を加えた方がよいのではないか。	修正
資料 25 ページ等	アンケートの自由意見のまとめについて、過去の調査であるため、語尾を「～ありました」「～ました」などの過去形に統一した方がよいのではないか。	修正
資料 22 ページ	「理由は統合によって通学時間が長くなることへの不安が大きいことです」という表現を、「不安が大きいからです」に直してはどうか。	修正なし
資料 30 ページ	ただし書きの最後(この限りではない)に句読点を入れた方がよいのではないか。	修正なし

3. 答申

竹内委員長より大台町教育委員会（福岡教育長）へ答申書が手渡された。

福岡教育長より、委員の皆様への労いと感謝の言葉とともに、「この答申をもとに大台町として基本計画を策定していく」旨が述べられた。

また、最後に各委員から次のようにごあいさつをいただいた。

- ◇ このような委員の経験は初めてでしたが、地元の小学校のこと、統合再編のことについて改めて考える機会をいただいたと思いました。今後も、地域住民の一人として関わっていかたと考えています。
- ◇ 委員のみなさんの意見を聞きながら、「こういう考え方もあるのだな」といろいろ気づかせていただくことができました。
- ◇ 町内の少人数の学校には、本当にいい思い出があり、いろんな複雑な思いで、この委員を引き受けました。しかしながら、これからの大台町を考える時に、「地域の学校がなくなる」などのことだけでなく、これからの大台町の子どもたちを育てていくためにはどうしたらいいのかといくことを思い、委員のみなさんと一緒に考えることができ良かったです。これからの大台町の小学校教育がどうなるのか、見守っていきたいと思います。
- ◇ 小学校が 60 年経ち、老朽化の一途をたどる中でこのような検討をしっかりとしていただいて、未来に拓けた学校が造られるという期待を持って参加させていただきました。

◇ 教員養成している大学の立場として、学校がなくなるということはそれだけ教員の枠が少なくなることにもなるので、本当はそのまま存続していただくのが一番ですが、今回の検討の中にもありました「複式学級」の課題などを考えると、このようなことに対応していかなければならないと感じました。大台町の小学校がより子どもたちの声で溢れるような、安心して学べる環境にしていいただければと思います。

◇ この時期、全国的に閉校式がたくさん行われ、廃校舎の跡地利用のニュースがみられています。このような中で、地域から学校がなくなるということは非常に寂しい思いがします。この度、大台町に関わる中で、委員のみなさまからいろんな意見をいただき、また、地域の方々のご意見、保護者の方々のご意見をいただき、いろんな思いも私たちに伝わりました。その思いも込めて、答申をさせていただきました。

これからは、児童が減っていく中で、いかにして地域を活性化していくかということでは、学校の力が非常に大きいと思います。これから、大台町が学校だけでなく、教育委員会、地域の方々が連携していただきまして、再編だけでなく、活性化にも力をいれたいと思います。私たちも今後もいろいろな形で関わらせていただきたいと思いますのでよろしくお願い致します。

4. 大台町立小学校のあり方検討委員会委員の解任について

大台町立小学校のあり方検討委員会設置条例第4条の規定（委員の任期は答申を終える日までとする）に基づき、本日をもって委員を解任した。

昨年5月28日の委嘱から全9回にわたる活発な議論への感謝を述べ、第9回大台町立小学校のあり方検討委員会を閉会した。